

この連研を通して、
感じたこと気づいたこと、
うれしかったことを
話し合ってください。



こそ、心から通じ合って話せる
ことから、「連研に来てよかつた」とみなさんがおっしゃるのだと思います。また、さまざまな問いに向き合いながら、グループの方々の意見を聞いたり、自分の話を聞いてもらったりする中に、ハッと気付かされたり、考えが深まったりする場面がたくさんあるのです。これが問い11に繋がるのだと思います。

連研の内容が、お寺でお聴聞してきたことと違うとお感じになった方もあるでしょう。例えば、お浄土と聞くと、ご信心をたまわり、私の命が終わってから往くところとは聞いてきたけれども、お浄土をめざして歩む私の生き方や、心の持ちようにつ



なか がわ おお き
中川 大城
連研中央講師

「連研に来てよかった」

みなさんは話し合い法座の経験はありますか？ 話し合い法座と聞くと「自分の意見を言うのは恥ずかしい」「今の私には無理だ」など消極的な意見が多く聞かれるように思います。しかし一歩踏み出して法座に加わってみると「イメージと違った」「思ったより話せた」という感想を多く聞きます。連研の募集があれば、ぜひ参加してみてください。

連研では参加者一人ひとりの人生を通して、お互いの思いや考えを共有していくことを大切にしています。真実のみ教えを依りどころとするお互いだから

*この連研を通して、感じたこと気づいたこと、

*うれしかったことを話し合ってください。

12の問い
その11

いて考える機会はどれほどあったでしょうか。

私たちの生きる現代社会（世間）と、私たち念仏者がめざすべき世界は、全く異なることをこれまでの問いから学びました。振り返るならば、部落差別をはじめ、さまざまな差別の現実があるにもかかわらず、お念仏にであいなから差別の視点を持ってない身を、親鸞聖人はもともと悲しまれたことも忘れてはなりません。み教えをありがたいとよろこびながら、一方では差別は社会の問題であると切り離し

て無関心でいたり、身近で起こったことには仕方がないと見ないふりをしたり、無かったことにしてきた現実にも、痛みを感じて向き合わなければなりません。話し合い法座で語られた本音と、語ることでできなかった思い、そこから感じた自分の本当の姿が、どれだけみ教えに沿うような生き方をしてきたのかと私を問っています。

お釈迦さまは『観無量寿經』に「仏心とは大慈悲これなり」と説かれ、また善導大師は、仏道を学ぶということは「仏の大

悲心を学ぶことである」とお示しになりました。「大慈悲」とは、あらゆるいのちの悲しみ、痛みを感じ、大慈大悲の心をもって包み込んでいく、そんな阿弥陀如来のお心だとお聞かせいただいています。だからこそ、仏道を歩むということは、人の悲しみや痛みを共感しようと努めて歩もうとすることだと、ここに知らされます。

よび声によび覚まされて

「連研を受けて変わったこと、変わらなかったこと」とサブテ

ーマにあります。阿弥陀如来を礼拝し、真実のみ教えを依りどころとする身において、変わらなければならぬという気持ちも、忘れてはならないと感じました。

話し合い法座で出会ったTさん（掲載承諾）は、食事のときも、お茶のときも、随分とご自身の思いを話してくださいました。「私は90歳になり受講をするかどうか本当に迷いました。年齢のこと、体力のこと、不安がたくさんありました。もっと学びたいという思いでここまで来たけれど、教えにであうとそこから行動していくと聞かせてもらいました。私には残された時間が少ないのです。もし明後日、

命が終わるなら、明日、このみ教えを友に伝えたい。私はこのみ教えにであって本当によかった」と涙を流して話してくださいました。「教えにであうと、そこから行動していく」とおっしゃったのです。このみ教えにであったからこそ、ご友人の抱える苦しみや悲しみ、痛みに共感していこうとお感じになったのだと私は思いました。

私はみ教えにであいながら、念仏者としてどれだけ行動してきたのでしょうか。「私には時間がない」とTさんはおっしゃいましたが、私自身も「時間がない」という思いに立つことができていたのでしょうか。「いずれそのうちに」という気持ちは

なかったか、なすべきことをせぬ「いずれそうなるだろう」と言い訳し、何かと理由を付けて目を閉じ心を閉ざしていたのではないかと思えます。ここに与えられた今を十分に過ごしていない私の姿が問われています。

自分の都合で揺れてばかりの私、それは揺れていることを見ようともしなかった私なのだと思います。そんな私の生き方を阿弥陀如来はむなしと知らしめ、よび声となって何度も何度も繰り返しよび覚ませてくださるのです。このみ教えとのであいを大切にしながら、私たちはどこへ向かっているのか、またどこへ向かうべきなのかを考えていきたいと思えます。